

うれしい！たのしい！



「見て、見て！」

楽しい集いが近づいてきたある日、もしかすればサンタクロースからもらえるかもしれないプレゼントを入れる袋(3歳児はブーツ型, 4歳児はツリーのカバン, 5歳児はサンタクロース)をつくっていました。

私が子どもたちの様子を見に行っていると、ちょうどできあがったところでした。3歳児の子どもたちは「見て！」「見て、見て！」と自分でブーツに絵をかいいたり、飾りを付けたりしたものを持ってきました。「いいのができたね」と一人一人に声をかけていると、…。○ちゃんが袋の取っ手を持ち、右足の横に沿わせて、一歩、そしてまた一歩と歩いています。○ちゃんは自分でつくったブーツを履いて歩いているように感じているのか、うれしくて、うれしくて、大満足です。○ちゃんの右側に立つと、本当にブーツを履いているみたいに見えます。自分でつくった、できた！といううれしさがにじみでていました。

4歳児のツリーのカバンが出来上がると先生に預けていました。「これが私の。飾りをいっぱいにしたの」「これ、僕がつくった。プレゼントもいっぱいや」とみんなの作品から自分のものを探して見せてくれます。

サンタクロースがプレゼントを入れてくれるかなという期待と楽しみを胸に膨らませ、一人一人がプレゼント入れをつくったことがとても伝わってきました。自分でできた！という3歳児の思い、うまくブーツのようになったといううれしさもあふれています。また、4歳児はこんなことを考えた、工夫をしたよというつくる過程での思いを伝えています。つくる意欲や必要感があり、できたうれしさ、満足感が味わえた製作活動です。こういった遊びの中で、自己肯定感が培われています。

「去年、サンタクロースさんが…」

楽しい集いの日の朝です。5歳児は昨年の経験から今日はサンタクロースが来るかもしれない！と期待をして登園してきたようです。「去年、サンタクロースが来た時に先生は、英語が喋れるようになる飴を食べはった」「そうそう」「電話で話していたよね」「あの電話はどこにある？」など昨年のことを友達と話し、思い出していました。

昨年、サンタクロースが来たことを思い出した5歳児。友達と話すうちにいろいろと思い出していきます。自分が覚えていた楽しかったことを友達に話すと、どんどんその日の出来事がよみがえって、話が弾みます。友達と共有でき、そのうえで今日はどうなるかなと、ワクワク感やドキドキ感が高まっていました。

各学年の子ども達が来てくれることを楽しみにしているサンタクロース。学年によって様子は様々です。しかし、この時期ならではの、どの子どもたちにも想像の世界を膨らませ、楽しさやうれしさを十分に味わってほしいと願う行事です。一連の遊びの中で、自分なりに試したり、考えたりし、自己肯定感をもつことや友達と楽しさを共有することなども培われていきます。

